



学校法人イーエスピー学園 専門学校 ESP エンタテインメント福岡

# 2021 年度 自己評価 報告書

(基準日 2022 年 3 月 31 日)

## ◇評価項目◇

1. 理念・目的・育成人材像
2. 学校運営
3. 教育活動
4. 学修成果
5. 学生支援
6. 教育環境
7. 学生の募集と受入れ
8. 財務
9. 法令等の遵守
10. 社会貢献・地域貢献

---

## 1. 理念・目的・育成人材像

◇自己採点◇ 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

点検項目		点検評価
1-1	理念・目的・育成人材像は定められているか	4
1-2	育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	4
1-3	理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	4
1-4	社会のニーズ等を踏まえた将来構造を抱いているか	4
具体的な状況、課題、改善策等		
<p>・教育理念、目的、育成人材像を定め、パンフレット、ホームページ等に明記することで、誰でも閲覧可能な状態としている。</p> <p>・関連企業から求められる人材、求められる知識技術を十分にヒアリングし、現代社会のニーズに合った目的と育成人材像を設定している。また、それらを学科毎に詳細に設定したため、より専門分野に特化した内容となっている。同じ音楽芸能分野でありながら学科毎に適性の異なる職種を目指すため、この詳細設定は非常に的を射たものと自負している。</p> <p>・新型コロナウイルス感染対策を行いつつ、本校の特色である「現場主義」を前面に打ち出した教育活動を実施。対面授業を進めつつ理念に基づいた人材育成を実践している。</p> <p>・関連企業との連携により、コロナ新時代に対応する人材を育成するため、業界のニーズを取り入れ、配信技術、映像編集、Vtuberに関するセミナーなど新たな取り組みを行った。移り変わりの早い音楽芸能分野の最先端技術・知識を常に取り入れ学生に提供することを一番の特色として実施している。</p> <p>・社会のニーズに対応するため、分野別実習という学科を越えた選択授業を実施し、学生自らが将来像を描ける特色あるカリキュラムを準備している。</p>		

---

## 2. 学校運営

◇自己採点◇ 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

点検項目		点検評価
2-5	理念・目的・育成する人物像に沿った運営方針を定めているか	4
2-6	運営方針に沿った事業計画を定めているか	4

2-7	運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化し有効に機能しているか	4
2-8	人事、給与に関する制度は整備されているか	3
2-9	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4
具体的な状況、課題、改善策等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念、目的、育成する人物像に沿った運営方針を職員会議によって定め、学科部署課毎に経費策定を行っている。全体像が見えたのち事業計画を定め文書化している。</li> <li>・人事給与に関する制度を定め、ファイル「就業規則 他 関連規定集」としてまとめ職員全員が閲覧できるようにしている。</li> <li>・人事給与制度については目に見える形での評価と給与の連携について改善を実施する予定である。</li> <li>・イントラネットを利用したネットワークシステムを構築し、県外の姉妹校を含め連絡事項やスケジュールの共有といった社内連絡をスムーズに行うことができている。</li> <li>・入学希望者の個人情報から学生情報である成績出席の管理を、一つのアプリケーションに集約し効率化が図られている。来年度からはデジタル出席簿を導入し、一層の業務効率化を図る予定。</li> <li>・校内Wi-Fiはオンライン配信に対応できるよう更なる整備を行った。今後も校内インフラは見直しをかけ充実化を図っていく予定。</li> <li>・学内ではGoogleアプリの「Classroom」を積極的に活用し、授業に関する情報を中心に、学生生活や就職、デビューに関する情報発信を行なっている。</li> <li>・学校運営に必要な部署課として事務局、教務課、広報課等の組織を整備し、それぞれの役割を基に業務遂行にあたっている。</li> <li>・部署課毎に運営会議を毎週開催し、教具等の上申やイベント立案等の計画プレゼンテーションを経てそれぞれの会議内で意思決定している。</li> </ul>		

### 3. 教育活動

◇自己採点◇ 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

点検項目	点検評価	
3-10	教育理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	4
3-11	学科毎に修業年限に対応した教育達成レベルを明確にしているか	4
3-12	教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	3
3-13	教育課程について外部の意見を反映しているか	4
3-14	キャリア教育を実施しているか	4
3-15	授業評価を実施しているか	4
3-16	成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	4

3-17	作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	4
3-18	資格取得に関しての方針は教育課程で明確に位置づけているか	4
3-19	資格取得の指導体制はあるか	4
3-20	資格要件を備えた教員を確保しているか	3
3-21	教員の資質向上への取組を行なっているか	3
3-22	教員の組織体制を整備しているか	4

具体的な状況、課題、改善策等

- ・学科毎にディプロマ・ポリシーと教育目標を定め、それに基づきカリキュラムを策定している。
- ・成績評価と修了認定基準を明確化し年度初めのガイダンスで学生に説明の上、データ共有し各基準に沿った運営をしてきた。
- ・教育目的や目標に沿ったカリキュラムを実施しているが、達成レベルを一層高めていくことが課題。結果を講師と職員で共有しつつ改善を図っていきたい。
- ・学校評価委員会を毎年実施。それ以外でもインターンシップやオーディションなどで業界とのつながりを強化し、職員が教育界と業界をつなぐ努力を続けている。
- ・キャリア教育として、通常カリキュラムでは1年生から一般教養、新2年生には就職キックオフガイダンスを11月に実施し、キャリアサポートセクション主導でセミナーも数回開催している。
- ・授業評価について、学生へのアンケートを学科ごとに年2回程実施。学生のストレートな意見を収集し、講師へのフィードバック後、講師への指導やカリキュラムの改善を行った。
- ・GPA制度を採用し学校全体で成績評価基準を定め適切に運用してきた。
- ・年間授業計画において知識技術のインプットとアウトプットが、非常に綿密に練られたバランスで実行できている。期間毎に蓄積された知識技術の発表会を開催。教職員や保護者が学生の成長を確認できる環境を作っている。
- ・資格取得希望者は今年度格段に増加した。コロナ禍において、ガイダンスや個人面談でも資格取得の重要性を説き、資格取得の対策授業を実施し全コースの学生に平等に機会を与えている結果だと分析している。
- ・教員の資質向上に関して、各教務で取り組みを強化し定期的に講師会を行って指導をしてきた。今後も継続し、同時に学科を越えて講師全体の資質アップに取り組む予定。また外部講師による講習も検討。

## 4. 学修成果

◇自己採点◇ 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

点検項目	点検評価
4-23 就職率の向上が図られているか	4
4-24 資格取得率の向上が図られているか	4

4-25	卒業生の社会的評価を把握しているか	4
具体的な状況、課題、改善策等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の求人数は339、就職率は58%→89%と大幅にUPした。コロナ期間を終えて、企業側が採用に動き出している。また学科コースに関係のない秘書検定受験者が増加するなど、コロナ禍だということに逃げず就職に向けて前向きな学生の動きが見られた。</li> <li>・在校生に就職意識を持たせるよう前年より1か月早く協力企業から就職担当者を招き企業説明会を開催。それを就職活動のキックオフとした。業界の現状などを早いうちから学生に共有できた。</li> <li>・キャリアサポートセクションという専門部署からのGoogleクラスルームを利用して、全学生へ求人案内を実施している。姉妹校へのオンライン説明会や面接に、本校も参加させてもらうことが増えた結果、採用の門戸も広がった。</li> <li>・校内には無線LANを整備し学生全員にタブレットを配布している。espドメインの個別メールアドレスを付与し就職活動で使用することができる。</li> <li>・卒業生の就職先の企業とは連携をとり、卒業生の活躍情報をいただいている。また卒業生に対しても就職情報やオーディション情報を在学学生同様に共有している。</li> </ul>		

## 5. 学生支援

◇自己採点◇ 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

点検項目	点検評価
5-26 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	4
5-27 退学率の低減が図られているか	4
5-28 学生相談に関する体制を整備しているか	4
5-29 留学生に対する相談体制を整備しているか	4
5-30 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4
5-31 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	4
5-32 学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか	4

5-33	課外活動に対する支援体制を整備しているか	4
5-34	保護者との連携体制を構築しているか	4
5-35	卒業生への支援体制を整備しているか	4
具体的な状況、課題、改善策等		
<p>・就職支援のキャリアサポートセクションと、デビュー支援のデビューサポートセクションにより、地域の情報収集はもちろん、東京、大阪に設置する姉妹校の求人情報、オーディション情報の共有を積極的に行い学生に向けてチャンスの拡大を図っている。</p> <p>・退学率については10%を切ることはできなかったが、前年度より2%の改善は見られた。密に学生や保護者と連絡を取っており、職員が面談を実施するよう努めている結果だと自負している。</p> <p>・定期的に学生との個別面談を開催し、学生と教職員間で概ね良好な関係を築くことができている。学生から受けた守秘以外の退学等に関する相談事項は、教職員間で共有し改善に向けての対策を検討する体制がある。</p> <p>・留学生に向けた学校独自の奨学金制度を整備している。</p> <p>・学生には奨学金制度や修学支援制度などを説明するガイダンスを常時開催している。</p> <p>・年度始に全学生を対象とした健康診断を実施している。</p> <p>・遠隔地から就学する学生に向けては、学生寮、学生マンション運営企業と業務提携して居住情報の提供に努めている。</p> <p>・学生の外部イベント実習やライブ活動、ボランティア活動については、公欠願を提出すれば出席扱となる制度を整えている。</p> <p>・保護者、卒業生には教務課を通じていつでも相談できる体制を準備している。また保護者には年間2回成績通知を送付している。</p>		

## 6. 教育環境

◇自己採点◇ 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

点検項目		点検評価
6-36	教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	4
6-37	学内外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	4
6-38	防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	4
6-39	学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	4
具体的な状況、課題、改善策等		

- ・実習授業で使用する機材に関しては同業界において、定番から最先端のものまで幅広く設置し考えられる中で最適な環境を提供できている。
- ・イベントのスタッフ研修参加を中心としたインターンシップ制度を実施している。学生の大きな現場経験になるだけでなく、貴重な職業見学の場となっている。
- ・今年度、外部イベント研修は学生対象で5回の実施であった。外部イベントは感染対策を十分に実施しているイベントを対象に選定していることを学生に告知し、来年度は更なる参加希望者を募るよう努める。
- ・海外に設置している姉妹校への研修旅行を毎年実施していたが、学生の健康面での安全のため今年度は中止とした。また実施できる状況になれば再開していく予定。
- ・安全管理に関する制度を定め、ファイル「安全管理等資料・防火管理等資料」としてまとめ職員全員が閲覧できるようにしている。
- ・火災防災組織を整備し年2回の避難訓練を実施、学生に向けた避難経路の確認と防火防災に対する意識付けを行っている。
- ・全学生を対象とした学生災害傷害保険、学校としては学校賠償責任保険に加入している。また、インターンシップ賠償責任保険等必要に応じた保険に適切に加入している。
- ・広く開かれた学校を目指し校舎内は可能な限り段差をなくし、点字ブロック、バリアフリートイレ、エレベーター等を設置している。定期的に学内の点検を実施し、安心安全な学校を維持していく。
- ・図書室に関して学生の要望に基づき冊数を増やしていくことで、興味に基づいた専門分野の学習支援を行っている。

## 7. 学生の募集と受入れ

◇自己採点◇ 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

点検項目		点検評価
7-40	高等学校等接続する教育機関に対する情報提供等の取組を行っているか	4
7-41	学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか	4
7-42	入学選考基準を明確化し適切に運用しているか	4
7-43	入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	4
7-44	経費内容に対し学納金を算定しているか	4
7-45	入学辞退者に対し授業料等について適正な取扱いを行っているか	4
具体的な状況、課題、改善策等		

- ・高等学校等の進路説明会へ年間250回参加し教育活動等の情報提供を定期的に行っている。
- ・学生募集活動の重要な位置付けとなるオープンキャンパス開催に関して、開催回数の効果的な設定、体験授業の内容を充実させること、学校説明会の内容を充実させることを常に議論してきた。学校説明会・オープンキャンパスをオンラインで開催するなど、様々な方法で学生との接触の機会を増やしている。
- ・オープンキャンパス開催時には必ず来校者アンケートを実施、オンラインにおいても、オンラインアンケートを実施し、次回開催に向けてアンケートの内容から問題点があれば検証し改善を行ってきた。
- ・社会のニーズに合わせて、募集状況を鑑み専攻や授業内容の変更を行っている。
- ・出願後の入学辞退者への授業料返還に関して、学校案内送付の際に同封する「募集要項」にて明文化している。
- ・入学に関しての選考基準を明確に定め、学校案内送付の際に同封する「募集要項」にて明文化している。募集要項に沿った運用を年間通して行ってきた。
- ・学生募集活動の主要ツールとなる学校案内、募集要項等を作成し、学科毎の教育活動、学習成果等について明確に紹介している。また、ホームページでは学校案内以上の詳細内容を紹介し、あわせてSNSを積極的に活用することで学校生活におけるタイムリーな情報を発信してきた。

## 8. 財務

◇自己採点◇ 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

点検項目	点検評価
8-45 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	4
8-46 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	4
8-47 教育目標の整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	4
8-48 予算及び計画に基づき適切に執行管理を行っているか	4
8-49 私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施しているか	4
8-50 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し適切に運用しているか	4
具体的な状況、課題、改善策等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度毎に募集人数の目標とそれに対する施策を踏まえた予算管理を、部署課それぞれ実施し教育目標との調合性を図っている。</li> <li>・予算及び計画に基づき「計画立案書」と「上申書」を作成し承認されることによって、イベントの計画や教具購入の経費決裁としている。今年度は電子化を進め一層の業務効率化を図った。</li> <li>・目標に定めた募集人数を継続的に達成することにより、学校運営において安定した財務体質を維持していけるよう努力する。</li> </ul>	

---

## 9. 法令等の遵守

◇自己採点◇ 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

点検項目		点検評価
9-51	法令や専修学校設置基準等を遵守し適正な学校運営を行っているか	4
9-52	学校が保有する個人情報に関し、その保護のための対策を実施しているか	4
9-53	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
9-54	自己評価結果を公表しているか	4
9-55	学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	4
9-56	学校関係者評価結果を公表しているか	4
9-57	教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	4
具体的な状況、課題、改善策等		
<ul style="list-style-type: none"><li>・法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っている。</li><li>・自己評価実施に関して学則に記載し専修学校の義務であることから、開校初年度より実施し公表している。</li><li>・毎年学生アンケートを実施し、カリキュラムの構築や講師の指導等に役立てている。</li><li>・学校関係者評価は「学校関係者評価報告書」としてホームページに掲載し、広く社会に公表している。</li></ul>		

---

## 10. 社会貢献・地域貢献

◇自己採点◇ 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

点検項目		点検評価
10-58	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
10-59	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
10-60	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3
具体的な状況、課題、改善策等		

・市などが開催する音楽イベント等、地域イベントがコロナ禍で中止となったため、過去積極的に参加してきたイベントに今年度も参加できていない。また、県内高校の軽音楽部活動支援として校内ライブホールの使用提供、学生スタッフの協力等により、エンタテインメント業界を目指す高校生への支援企画等を行っていたが、こちらもコロナ禍で中止となっている。来年度からの再開を目指している。

・地域貢献のためのチャリティーライブや公開講座の開催に向けて、コロナ等の状況を見ながら準備を進めていく予定。

・学内に募金箱を設置し、社会貢献の一環として子ども保護NPO法人等ふたつの団体に寄付をしている。また、募金活動により学生に対して社会貢献の意識付けを行っている。

・ボランティア活動が授業と重なる活動開催日となった場合は、公欠として認め学生が参加し易い状況となっている。

・高校からの要請により教育訓練としての楽器実技等レッスンを往訪開催および来訪開催してきたが、こちらもコロナ禍で中止となっている。来年度からの再開を目指す。

#### <自己評価実施概要>

- ・在校生アンケートの実施(2022年2月)
  - ・自己評価委員会において2021年度自己点検を行う。学生アンケートの集計を参考資料として討議。(2022年4月)
  - ・2021年度の学園規則やカリキュラム修正等の反映について確認。(2022年4月)
  - ・2021年度自己評価を取りまとめ内容確認及び承認を行う。(2022年5~6月)
-

## 1. 学校の教育理念

### ◇建学の精神

音楽・楽器を創造することを通じて豊かな人格を形成し、さらに自己の可能性を追求する人材の育成。

### ◇教育の理念

建学の精神に基づき、エンタテインメントに関する高度かつ最新の知識や技術を修得し、感動を創造できる人材の育成に力を注ぐ。

## 2. 学校の教育目標

「卒業の認定に関する方針」の【教育目標に定める人材育成】から、以下抜粋事項を学科毎の教育目標と定める。

### ◇音楽アーティスト科、音楽アーティスト科Ⅱ部

一、理論や類例を通じて得る知識量と反復実践において獲得するテクニックを包括し、エンタテイナーとして即戦力となりうる高度な技術力の習得

一、ワークショップや討議などを通じてエンタテイナーとしての美学や哲学など多様な感性を磨き、ステージにおけるケーススタディーを通じて観衆を魅了しうるパフォーマンス力の習得

一、専門分野における基礎課程を土台とした作品制作における技術や知識の組み合わせ、及び実験を試みながら新時代に対応しうる創造性やクリエイティビティーの習得

### ◇声優芸能科

一、声優、俳優の土台となる、発声法、発音法、呼吸法を基に美しい響きを持った正しい日本語で正しい情報を伝達することができる専門的知識と技術の習得

一、多くの戯曲と作品に触れ創作を通して、脚本や創作意図を理解し解釈する力、自ら思考し役柄の個性を表現する力、他者に伝えるための演劇的な説得力の習得

一、様々なメディアにおいて対応するための、歌唱、アフレコ、ダンス、殺陣、ナレーション等、それぞれの専門分野における基礎技術と応用技術の習得

### ◇音楽芸能スタッフ科、音楽芸能スタッフ科Ⅱ部

一、授業内で使用した様々な機器の名称、役割、正しい接続方法、基本的な操作技術の習得

一、授業内のグループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション等で学んだ音楽スタッフそれぞれの役割と演者との関係性を理解し、実践的なイベントにおいて活かすことのできるコミュニケーション能力の習得

一、様々な環境や条件を想定した授業を受講した結果として、いかなる場面においても音楽スタッフとして、それぞれの役割の上で臨機応変に対応できる能力の習得

### **3. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画**

- デビューサポートセクションとキャリアサポートセクションの運用強化
- コロナ禍における学校運営として、学内設備の充実と学生満足度の向上
- 進級率 85 パーセント以上
- 年間平均出席率 80 パーセント以上

### **4. 評価項目の達成及び取組状況**

#### ■デビューサポートセクションとキャリアサポートセクションの強化

- ・就職活動者名 46 名のうち 41 名が就職し就職率 89%であった。

履歴書写真撮影やキックオフを1か月前倒しにした成果もあり、前年度比30%UPとなった。また就職活動のデータを収集し来年度に活かせる仕組みを構築。

- ・デビューサポートセクション主導のオーディション 6 回・外部オーディションの告知 52 回実施(参加者数延 150 名)。他レコーディングサポート、宣材写真撮影会、バンドメンバー募集サポート等を実施。2年生に大手レコード会社より声がかかる。引き続きサポートを続けている。

#### ■コロナ禍における学内設備の充実と学生満足度の向上

- ・AI検温器を導入。また学生1人1台のipadに加え、各教室にも1台ipadを設置。学生へのオンライン対応及び講師や職員の業務効率化を図る。学生アンケートの結果、学生の学校評価は3.3⇒3.4へ上昇。シラバスや教育理念の周知、感染対策を万全にしライブ発表に観客が動員できるようになったことへの評価だと考える。他、楽園祭、スポーツ大会などレクリエーションの実施も評価が高かった。

#### ■進級率 85 パーセント以上

入学者数 141名→進級者数 121 名(進級率 85.8%)

2 年生進級者数 156 名→卒業者 140 名(卒業率 89.7%) 合計 87.8%

#### ■年間平均出席率 80 パーセント以上

音楽アーティスト科 81.7%

声優芸能科 89.7%

音楽芸能スタッフ科 88.0%

音楽アーティスト科Ⅱ部 86.7%

音楽芸能スタッフ科Ⅱ部 96.9% 合計 88.6%

## 5. 来年度、重点的に取り組むことが必要な目標や計画について

- 「現場主義」に即した外部研修参加体制の強化
- 進級率・卒業率を向上させるための施策の強化
- 円滑な学校運営を支えるための継続的な学校広報の強化
- 進級率 90 パーセント以上
- 年間平均出席率 85 パーセント以上

以 上